

大潟村連携教育を支える コミュニティ・スクールの推進

地域ぐるみで子どもの「学び」・「育ち」・「心」を支えます



未来を担う
子どもたちのために

2021年3月

大潟村教育委員会

学び

「考える力」「表現力」「意欲的に学ぶ態度」



今年度の重点

1. よく聞いて、考えて、伝え合う活動の充実



「はいどうぞ」 伝え合う活動

2. 読書活動の充実・発達段階に合わせた読書活動の工夫



中学生による読み聞かせ

3. 関わり合って学ぶ(遊ぶ)活動の充実



自分の考えを伝え合うペア学習

◇成果

1 伝え合う活動

- 三校園で発達段階に合わせて伝え合う活動を継続的にやっているのので、安心して自己発揮し学習内容をよく理解するなど、一定の成果が出ました。
- 教師・保育者と子どもの信頼関係づくりも成果につながりました。
- 聞き方・話し方シートの活用により、意識を高めることができました。

2 読書活動

- 保護者や地域のボランティア、小学生に対する中学生の読み聞かせなどが有効で、読書活動の充実を図ることができました。
- 様々な新刊図書の購入は、読書に対する興味・関心を高めています。

3 関わり合って学ぶ(遊ぶ)活動

- 授業時間でのペアやグループ活動、行事等での縦割り活動、異学年交流、カジュアルタイムでの活動が充実していました。
- 行事等で主体的に活動し、賞揚・感謝されることが自己有用感を高めています。



「ここ、どうする？」(園でのキャンプごっこ)



グループ学習「音の伝わり方の実験」



「理科」 伝え合って学ぶ

◆課題

1 伝え合う活動

- 話し合いの質の向上
- 間違ふことを恥ずかしながら発表できるような雰囲気(信頼関係)作り
- T Tの活用や子ども同士の教え合いや学び合いの充実
- 学級や全校など大集団の場でも堂々と話せるようにすること

2 読書活動

- 新刊コーナーやお勧めの本の紹介などによる、読書の幅を広げる活動の継続

3 関わり合って学ぶ(遊ぶ)活動

- 上級生が下級生を思いやり、下級生が上級生を尊敬できるように、行事や遊びを子ども主体にすること
- 気持ちよく関わり合うために、必要に応じたルールを主体的につくること
- 伝え合う活動の充実につながる反応のよい聞き手を育てること

❖来年度に向けて

1～3の重点項目を継続します。1については、家庭、CS(学校運営協議会)、地域と協力し、伝える活動や伝え合う活動の質を高めていきます。また、伝え合う活動や関わり合って学ぶ(遊ぶ)活動のためには共感的な人間関係が基本となることを三校園で共通理解しながら進め、「人の話を最後まで聞く」ことを共通実践していきます。

育ち

「規範意識」「健康・安全意識」「主体的な行動力」



今年度の重点

1. 体験的な活動を通じた自己有用感や自己肯定感の醸成



地域の方の前で自信をもって合唱

2. 体力の向上、柔軟性の改善、持久力の強化：発達段階に応じた意図的・計画的な指導と、運動の習慣化



ランランタイムで持久力の向上

3. あいさつ運動の充実：地域との連携を図った心を込めた、あいさつ運動の指導、学校運営協議会との連携



年長児のあいさつ運動～学校運営協議会の委員と一緒に～

◇成果

1 体験的な活動 自己有用感や自己肯定感の醸成

- コロナ禍でも、行事内容や日々の活動を工夫し、周りから認められる場を設定することで、一人一人が達成感を感じ、自己有用感も高まりました。
- 異学年交流によって、上学年の子が認められたり、また互いのよさを認め合う機会になったりして、自己肯定感を高めた子どもが多くなりました。

2 体力の向上 柔軟性の改善 持久力の強化

- 日常的に遊ぶ場や時間を確保することで、子どもたちは積極的に体を動かしました。また、年齢に合わせた運動遊びを意図的に取り入れることで、集団の中で運動を楽しむ姿が見られました。ストレッチ集会等の実施により、自分の身体の理解・柔軟性への意識化を図ることもできました。

3 あいさつ運動

- こども園の年長児のあいさつ運動、小中の委員会の活動としてのあいさつ運動を計画し、主体的に活動することで、あいさつの大切さへの思いが高まり、日常的あいさつも良くなってきました。
- 学校運営協議会の委員の方々のあいさつ運動の回数も増え、子どもたちや保護者が張り切ってあいさつをしている様子が見られました。



年下の子どもとのかかわりの中で育んでいく園小いもほり交流



発達に合わせた運動遊び



委員会がリードするあいさつ運動

◆課題

1 体験的な活動 自己有用感や自己肯定感の醸成

- 継続して新型コロナ感染防止に配慮し、見通しをもって行事や活動を計画し認め合える場づくりをすること

2 体力の向上 柔軟性の改善 持久力の強化

- 運動が好きな子どもと、苦手な子どもとの差を縮めていくための、行事やカジュアルタイム等の取り組みの見直し

3 あいさつ運動

- 玄関前に小中の生徒がたくさん並ぶと、学校に入りにくいと感じる生徒もいるため、人数や時間等を工夫したあいさつ運動の実施

❖来年度に向けて

- 育ち班の柱である「規範意識」については、各校園共通の課題「正しい言葉の遣い方」に、新たに取り組んでいきます。
- 全体で体を動かす運動遊びを行事等に計画的、意図的に取り入れます。
- 各校園とも、子どもたちによるあいさつ運動の仕方を工夫(場所、時間、人数等)します。学校運営協議会の委員の方々のあいさつ運動を継続します。

心

「優しい心」「たくましい心」「ふるさとを愛する心」

◎他者とのかかわりを重視した体験活動



今年度の重点

1 「あこがれの心」「思いやりの心」を大切に交流の実践



園小なかよし交流（年長児と5年生）

2 見取り、伝え、認め合う教育活動の推進



生徒会集会（学年の枠を越えて）

3 地域に関わり、学び、つなげる体験活動の充実



職場体験（中学生がこども園へ）

◆成果

1 「あこがれの心」「思いやりの心」を大切に交流

- 園小交流では、活動の中で課題を見付け、その課題を解決する計画を立て実践することで、「あこがれ」や「思いやり」の心を育むことができました。
- 中学校の地域の方に指導してもらったことを通して、生徒は、地域の方を人生の先輩として敬う気持ちをもちました。

2 見取り、伝え、認め合う教育活動

- 行事での交流の様子や振り返りから、先輩が後輩を育てようとする姿勢や後輩が先輩を敬う姿が見られ、信頼し合う関係をつくることができました。
- 園児、児童、生徒の理解に努め、共通実践を進めることができました。お互いを認め合う機会が多くなりました。

3 地域に関わり、学び、つなげる体験活動

- コロナ禍ではあるが、できる限り、地域の方々との交流を行い、その中で、自分たちに関わってくれる地域の思いに触れ、村や地域の方々よさを感じることができました。

◆課題

1 「あこがれの心」「思いやりの心」を大切に交流

- より実感を伴う「あこがれ」や「思いやり」になるように、活動前の意識のもち方や準備、活動後の振り返りまで、丁寧に行う意図的・計画的な交流の実践

2 見取り、伝え、認め合う教育活動

- 保育者、指導者全体が行う、園児・児童・生徒のより深い共通理解のもとで進める教育活動の推進

3 地域に関わり、学び、つなげる体験活動

- 制限がある中でも、ねらいが達成できる交流活動や体験活動の立案や見直し



散歩でふれあう園児と地域の方



道徳の授業での振り返り



地域の方から学ぶ「大中キラキラ塾」

◆来年度に向けて

- 地域の方を巻き込み、園児・児童・生徒の思いが伝わり、次の活動、次の学年、そして一人一人の心の成長につながる交流活動や体験活動を推進していきます。

R2.12.16

大潟村連携教育公開保育・授業を参観

～感想の一部を紹介します。～



こども園の保育を参観して

- 鬼ごっこや積み木など、保育者の手を借りなくても子ども同士が伝え合いながらよく遊んでいました。
- コロナのために、いつも以上に衛生面に配慮し、手をかけ、声をかけ、目をかけている様子に頭が下がります。
- 園内が広々としていて、伸び伸びしています。異年齢の交流ができるのが良いですね。



小学校の授業を参観して

- 子どもたちが集中して関心をもって授業に臨んでいます。パソコンも活用できてすごいです。
- たくさんの子どもに発表してもらおうと、いろんな言葉で子どもは、表現していることが分かりました。
- 授業の初めに課題を明確にすることで、子どもたちの中で「分かった」「分からなかった」がはっきりして良いと思いました。



中学校の授業を参観して

- タブレットを用いて、跳び箱のフォームの確認ができるのは、とても良いと思います。
- 字のきれいな先生が多いですね。子どもが書いたものへのコメントの量も多く、見てもらっていると感じました。
- 活動写真がたくさん貼り出されていて、とても良いと思いました。子どもたちも振り返ることができ、頭が整理できます。



委員の皆様のご意見・ご感想は、「子どもたちの自信」と「教職員のやりがい」につながっています。

R2.12.16

大潟村連携教育研究協議会に参加

～“潟っ子のインターネット事情”をテーマに熟議を行いました。～

子どもたちのために、教師・保護者・地域が、潟っ子のインターネットの現状と課題を共有し、それぞれの立場から意見を出し合いました。笑声が時折聞こえる和気あいあいとした雰囲気の中、熱心な熟議が行われました。



熟議の様子は、「おおがたん通信3号」でお知らせしています。



こども園部会・小学校部会・中学校部会に参加

～ 2 回目の部会の意見を紹介します。～

こども園部会

1回目 R2.7.9 2回目 R3.1.26

散歩途中に出会う地域の方とのふれ合いは、天気や時間などもあり、難しい面もあると思いますが、これからも地域にふれる機会を大切にしたいと思います。

公開保育の参観の感想には、こども園の温かい雰囲気や職員がいろいろな工夫をして保育していることがたくさん書かれていました。保護者としてもそれを感じました。

あいさつ運動は、担当の子ども達が張り切って玄関前に立ったり、子どもが進んであいさつするようになったりと、とても良い取り組みだと思います。ぜひ来年度も続けてほしいです。

地域の方や中学生との交流などの体験から、思いやりが育まれることも一つですが、日々子ども同士のかかわりから育つ思いやりや優しさにも重点をおいてほしいです。

小学校部会

1回目 R2.7.20 2回目 R3.1.28

問題文を読み取る力を付けるために、読書と結び付けて取り組んではどうでしょうか。

規範意識は、小さい時からの指導が大切。園・小・中で連携して指導する体制を整えてほしいです。

小3～4年は子どもたちの言動が変わってくる時期。子どもの時のトラブルは、指導のチャンスと捉えたいですね。

どんな理由があってもいじめはいけないことだと全ての子どもが言えるように、教師や親など子どもの周りの大人がしっかり指導する必要があります。

中学校部会

1回目 R2.7.1 2回目 R3.1.25

家庭学習については、学校でその意義や有効な学習の仕方を提示し、生徒が自分から進んで取り組むような手立てを考えてほしいです。

規範意識については中学校だけではなく、園・小・中と連携した指導が必要だと思います。学校だけではなく、家庭・地域を巻き込んだ取組を今後行っていくことが大切だと思います。

地域のよさを知るために農業体験を経験させ、郷土愛を育てる教育活動を継続してほしいです。

子どもたちの違いによって心の育ちにも違いが出てくると思います。その時々の子どもの育ちを見取り、子どもに応じた指導を園・小・中と連携して進めてほしいです。

学校運営協議会の皆様のご意見を参考に、令和3年度は、こんな園・学校を目指します。

大湊こども園

- 【学び】** 主体的な活動を促す環境作り
- 【育ち】** 体力向上とあいさつ運動の継続
- 【心】** 他者との関わりの中で育つ優しい心

大湊小学校

- 【学び】** 主体的に課題解決に取り組む子どもの育成
 読書活動の推進と「書く・話す」力の育成
- 【育ち】** 規範意識の育成とあいさつ運動の推進
- 【心】** 思いやりの心を醸成し、感動と共感を生む教育活動の実施
 たくましさを育む教育活動の実施

大湊中学校

- 【学び】** デジタル教材活用による授業改善
- 【育ち】** 開かれた学校づくりの実現
- 【心】** 思いやりの心を育む

園・学校運営の評価はQRコードからご覧いただけます。

大湊こども園



大湊小学校



大湊中学校



大潟村連携教育推進協議会・学校運営協議会全体会

～大潟村連携教育推進委員と学校運営協議会の委員の皆さんが一堂に会し、意見交換をしました。～

地域との連携について

- コミュニティ・スクールが発足し、学校の様子や先生たちの思いが地域に伝わるようになりました。
- 三校園（園・小・中）という縦の連携に、学校運営協議会の協力が加わったことで、横の連携の可能性がさらに広がってきました。
- 園・学校を支援してくださっているボランティアの方たちの思いも聞きながら、同じベクトルで取り組んでいくことが必要だと思います。

熟議について

- グループで熟議をすることで、いろいろな意見が出されました。出された様々な意見を生かして、どのような取り組みをし、どのような成果や課題があったのかを知りたいです。
- 来年度は、GIGAスクール構想がスタートする年。タブレットをどう活用するかなど、IT教育に関する熟議をしてみたいです。
- 保護者にも子どもたちにも、性教育を身近なものとして捉えてほしいです。地域で講座をしてくださっている方もいますので、これをきっかけに、熟議をしてみたいです。

コロナ禍の子どもたち

- こども園では、手洗い・うがいの習慣が徹底したせいか、インフルエンザ等の感染症に罹る子どもはいませんでした。子どもたちは、とても元気です。
- 小学校では、行事の縮小はありましたが、保護者や地域の皆さんの協力を得ながら、ほとんど実施することができました。インフルエンザ等が広がることもなく、欠席者は昨年度より減っています。
- 中学校では、部活動の大会中止や縮小、観客の制限等があり、子どもたちにとっては残念な形となってしまいました。また、2年生の修学旅行は、今年に延期になっています。このような状況においても、子どもたちに大きな変化は見られませんでした。
- 3歳児の子どもが、親に言われる前に自主的に手を除菌していました。子どもたちの意識が変わってきていると感じます。
- コロナに対する警戒感、各家庭で違いはありますが、我が家では、休日に出かけることは、ほとんど無くなりました。子どもは不満を感じているかもしれません。
- 村の施設等が使えなくなったこともあり、ゲームの中で友達と遊んだり、関わったりしてします。
- 中学校の修学旅行は、何らかの形で実施してほしいです。



潟っ子の規範意識の育成

令和2年度第2回大潟村連携教育推進協議会資料

令和3年度 大潟村連携教育における共通実践事項(案)

『村の全ての子どもたちが、居心地のよい場所で生活・活動するために』

➡ ◎ 園・小・中で一貫した**規範意識の醸成**を目指す

規範意識とは ➡ ◎ 社会で必要とされるルールを守ろうとする意識
◎ 社会で求められるモラルを守ろうとする意識

三つのルール

- 1 人の話は最後まで聴く
- 2 人の失敗を笑わない
- 3 人の嫌がることをしない・言わない



三校園、保護者、地域住民の三者が、**信頼と期待を前提とした言葉かけ**をしながら、**同一步調で粘り強く指導**していく。

規範意識の醸成

ルールが守られ、秩序が保たれていながら、温かい、ふれあいのある学級づくり

ICT教育の推進



〈共通実践事項に対するご意見〉

- 共通実践事項として、連携して取り組むことは、非常に良いことだと思います。
- 3つのルールがなぜあるのか、その理由を子どもたちにしっかり教えてほしいです。
- 3つのルールは、一人の社会人としても、とても大事なことです。来年度、三校園と地域が、一緒に取り組むことができたらと思います。